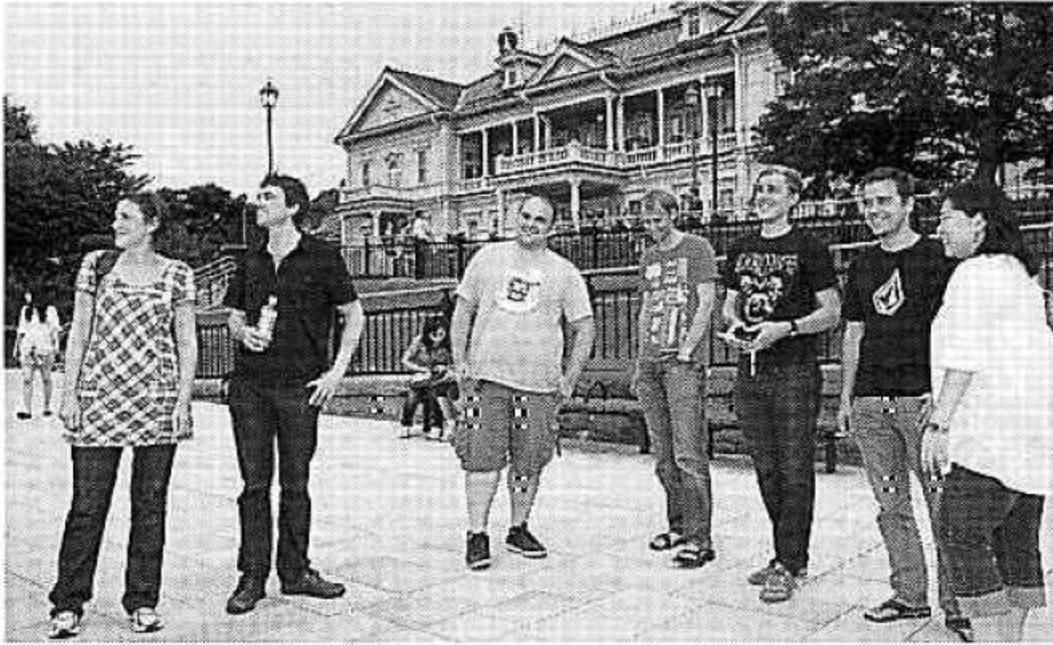


# 海外の若手研究者が函館視察

## 「開港の足跡見える街」



北大スラブ研究センターの国境問題研究プログラムで函館入りした、国境問題を専門にする海外の若手研究者が7月31日、函館・西部地区を視察した。

プログラム（7月27日～8月4日）には欧州やアジアなど世界10カ国の若手研究者15人が参加。札幌でのセミナー

異国情緒あふれる函館・西部地区を視察する海外の若手研究者

ナーのほかにも、開港で外国との接点も多い函館を視察に訪れた。

31日は旧函館区公会堂や旧イギリス領事館、中華会館など異国情緒あふれる西部地区を歩いた。カナダ・オタワ大のジャン・ムト

ウルーさん(26)は「函館は開港の足跡が目に見える街」。英国のアンドリュー・バーリッジさん(28)は「坂が多くてサンフランシスコの街並みに似ている」と印象を話していた。

(伊藤美穂)